

2020年11月5日

各位

会社名 デンカ株式会社
代表者名 代表取締役社長 山本 学
(コード 4061 : 東証第1部)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長
福岡 智
(電話 03-5290-5511)

窒化珪素の生産能力を大幅増強し機能性セラミックス材料事業を強化

デンカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山本 学）は xEV (*1) 向け放熱材料の事業強化の一環として、このたび大牟田工場（福岡県大牟田市）で製造する窒化珪素の能力を現行比から約3割増強し、機能性セラミックス事業を強化いたします。

窒化珪素とは熱的・機械的特性に優れた代表的なエンジニアリングセラミックの一つであり、デンカは生産能力、市場シェア共にトップクラスの位置付けにあります。

xEV の普及に伴い、放熱材料市場の伸長だけでなく、車載部品の高性能化により、高熱伝導性や高信頼性等、その要求水準が飛躍的に高まっております。当社の窒化珪素は、高熱伝導性をはじめ高強度、耐摩耗性、高信頼性等の特長から、車載駆動用インバーター向け放熱基板や風力発電向けベアリングボール、半導体製造装置など構造材用途において高い評価をいただいております。

本能力増強により、安定供給体制をさらに強化するとともに多様なユーザーニーズにお応えします。

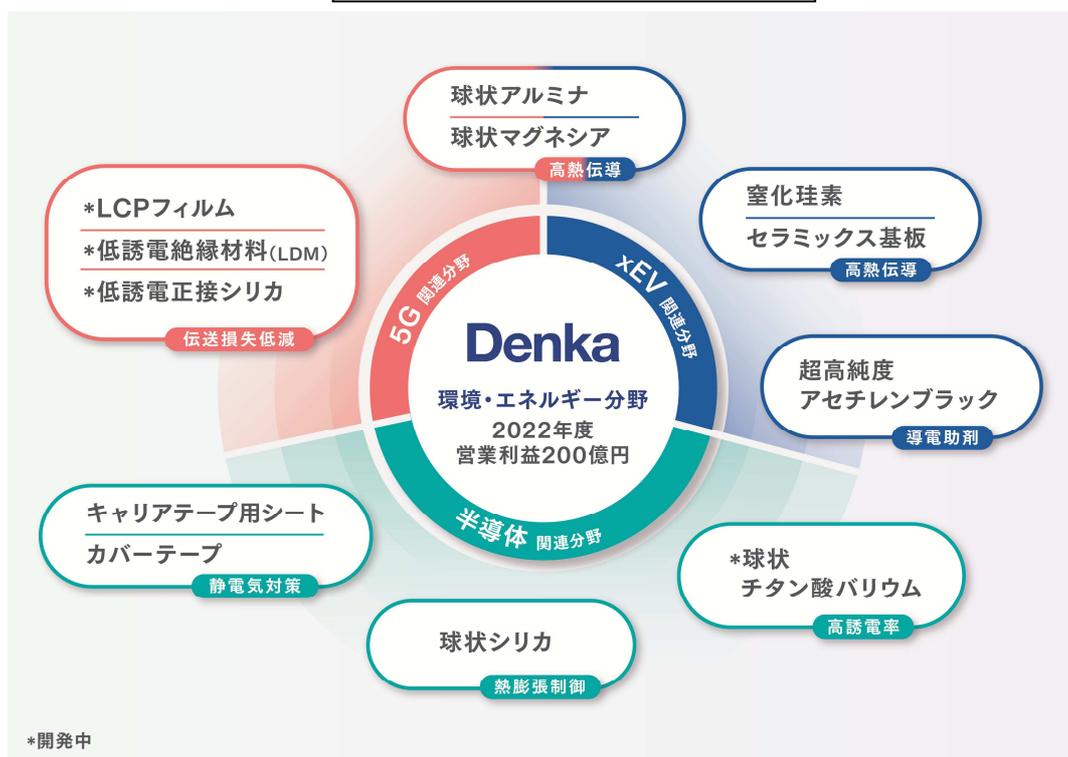
当社は経営計画「Denka Value-Up」における成長戦略「事業ポートフォリオの変革／スペシャリティー事業の成長加速化」の一環として、5G(*2)・xEV を中心とした環境・エネルギー分野に注力しています。1915年の創業以来培ってきた無機材料の高温焼成・窒化反応・粒径制御等の基盤技術をもとに、球状溶融シリカ、窒化ホウ素、球状アルミナ、蛍光体など多岐にわたる機能性セラミックスを提供するトップメーカーとして、先月市場に投入した球状マグネシアのほか、新たな素材の開発にも積極的に取り組んでおります。

また、今後需要の増加が見込まれるリチウムイオンバッテリー向け超高純度アセチレンブラックの安定供給に努めるとともに、5G 用途の LCP フィルムや低誘電絶縁材料 (LDM) 等、機能性セラミックス以外の新素材開発も進め、環境・エネルギー分野において 2022 年度の営業利益 200 億円達成を目指します。

当社はSDGsを羅針盤に、通信速度の高速化や電気自動車の性能向上に向け 5G・xEV 用途を広げ、スペシャリティー事業の成長を加速させてまいります。

以上

環境・エネルギー分野の主力製品



1. 概要

- ・導入拠点 : 大牟田工場 (福岡県大牟田市新開町 1 番地)
- ・投資内容 : 設備増設による能力増強
- ・生産能力 : 現行比から約3割増強
- ・稼働時期 : 2022 年度下期 (予定)

2. 2020 年度連結業績への影響

2020 年度当社連結業績への影響はございません。



窒化珪素

(*1) xEV

電気自動車 (BEV)、ハイブリッド電気自動車 (HEV)、プラグイン・ハイブリッド自動車 (PHEV/PEV)、水素燃料電池自動車 (FCEV/FCV) の総称。

(*2) 5G(5th Generation)

第 5 世代移動通信システム。

【ご参考: 本件に関連する過去プレスリリース(当社ホームページ)】

- ・2020 年 10 月 9 日 「5G・xEV 向けに最先端機能性セラミックス「デンカ球状マグネシア」を市場投入
～新たなサーマルソリューションを提供し環境・エネルギー分野を強化～」

https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/773/20201009_denka_5g_xev.pdf